

自然

みどりを守り、育む

地域連携で育むみどりの保全・創出に取り組んでいます



小さな森に新たな風が吹きました

財団独自の制度でご登録頂いている小さな森。3～6月の間に各所有者のご協力を頂き、全9回のオープンガーデンを開催、延べ128人の方にご参加頂きました。

その中で、4月に行われた「野沢・ときそらの庭小さな森」オープンガーデンの様子をご紹介します。この日は小糠雨に包まれ、しっとりとしたお庭を見学しながら、ガーデニングアドバイザーによる多年草ガーデンづくりのミニガイドも。

そして、隣接する子育てひろば・プレーパークの「のざわテットーひろば」の見学も行いました。樹上のツリーハウスや、季節の果樹など、ときそらとは違う新鮮さも体験。垣根を超えた交流は、今後の可能性への風のように感じました。



(上)野沢・ときそらの庭小さな森
(下)のざわテットーひろばのビオトープ池

ナラ枯れ被害木から考えるまちの木とのつきあい方 ～区立次大夫堀公園民家園での薪活用



次大夫堀公園民家園 古民家の大釜



ナラ枯れ被害木でつくった薪

現在、区内で「ナラ枯れ」という、コナラやクヌギ等のナラ類が枯れる現象が問題になっています。これはカシノナガキクイムシ(カシナガ)という昆虫が原因で、このナラ枯れによって完全に枯れた木は、倒木などの恐れがあり危険なため伐採せざるを得ません。伐採後も木材の中には幼虫が多く生息しており、燃やすなどの処置が必要です。

5月、成城の緑地で伐採されたクヌギ材の一部を、農家の昔の暮らしを再現する「次大夫堀公園民家園」の古民家のかまどで使う薪などに活用して頂きました。

日本在来昆虫、カシナガの大発生には私たちと樹木との関わりの変化が大きく関係しています。

世田谷の「ひと・まち・自然」を支える応援団に、あなたもなりませんか？

トラストまちづくり会員・ボランティア募集など、詳しくはこちらからご覧ください。



トラまちTOPICS2022 WEBアンケート

より魅力のある情報を発信するため、ぜひ、読者の皆様方のご意見やご感想をお聞かせください。ご協力、お願いいたします！
回答期限：2022年12月25日(日)



一般財団法人 世田谷トラストまちづくり
SETAGAYA TRUST & COMMUNITY DESIGN

2022年9月発行
〒156-0043 世田谷区松原6-3-5
Tel 03-6379-4300(代表)
Fax 03-6379-4233



【財団ホームページ】
世田谷トラストまちづくり
<https://www.setagayatm.or.jp/>



トラまち TOPICS 2022 1月～6月

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり は

「ひと・まち・自然」が共生する世田谷

の実現をすすめています。

財団の取り組みや成果など、
ホットな話題をご紹介します



巣が落ちないように配慮された、手づくりの台



生後17日頃、
だいぶ親に似てきました



生後
8日頃の雛

(写真提供：野鳥ボランティア)



二子玉川小学校でのオンライン授業
みんな集中して聴いています



ツバメの巣をあたたく見守ってくださっている
地域の方々に、感謝

世田谷の 野鳥と共に31年

野鳥ボランティアは、世田谷区内各所での野鳥調査とその報告・発信、野鳥観察会のガイドをはじめ、小学校の総合学習の講師ではオンラインを取り入れるなど、様々な取り組みを通じて、世田谷の環境を見つめ続けてきました。生息環境の保全活動へも多面的に参加しています。

ツバメの巣は 減ったのか？



4月に「ツバメ繁殖数調査報告書2021」を発行、5月に調査結果の報告会を開催しました。報告会では、区内全域のツバメの繁殖の様子、20年前、10年前と今回の調査との比較分析(繁殖件数253件、巣立ちヒナ数767羽。20年前より約30%減少)などを発表。後半には、祖師谷商店街で餌を運ぶ親鳥や雛の様子を案内し、大変好評でした。区内の環境について野鳥を通して考える有意義なつどいとなりました。

野鳥ボランティアでは、ともに学び楽しみながら、一緒に活動する人を募集しています。



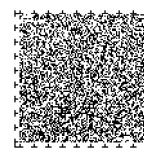
ツバメ繁殖調査報告書



世田谷の鳥2020

「世田谷の鳥2020－世田谷区鳥類目録－」を発行！

2020年までの約75年間に世田谷区で観察された野鳥285種について、生息、生態の概略、世田谷区内での観察記録の分析、種別に経年による増減変化等を掲載しています。



ひと

地域のコミュニティを広げ、共に助け合う
ひとの力を結んで広げる、地域共生まちづくりをすすめています

地域共生のいえオープンデイを開催しました

オープンデイは、自宅を地域にひらく楽しさや苦勞を地域共生のいえオーナーから直接お伺いできる機会です。1月にオンライン開催にしたため、遠方からも参加いただきました。登壇は「きんしゃい」米屋さん。抱えている不安を誰かに少しでも話すことで気が楽になるのでは。コロナ禍で困っている人が増えている中、こういった場が必要とお話いただきました。

※「地域共生のいえ」とは、建物の所有者（オーナー）がご自身の住まいを地域にひらく取り組みです



「きんしゃい」を訪問してみたい方は、こちらから詳細をご覧ください



イラスト：瓢斎（小塚秀志）

収穫の喜びは日々の営みにある！美味しい体験をキャッチしよう！



毎年4月からはじまる野菜づくり講習会、そして親子で参加する農業体験イベントは毎回大人気です。広い畑で野菜づくりに触れるのは、ほとんどの人にとって非日常。でも毎日おいしい野菜を気軽に食べることができるのは、日々野菜を育てる農家の方々の努力あつての賜物です。タネを蒔いて、育った作物を収穫し味わえる、そんな大地の恵みと農家の努力を感じ取る体験です。土に戯れて、美味しい体験を瀬田農業公園（分園）でキャッチ！！



4月に蒔いた枝豆の収穫体験



野菜づくり講習会の様子(5月)



落花生、サトイモの植付け体験(5月)

市民社会をつくる ボランティアフォーラム TOKYO2022 に参画しました

2月に東京ボランティア・市民活動センターが主催するフォーラムに実行委員として参画しました。実行委員らで持ち寄った社会課題を、分科会として発信する場です。財団では、様々な立場で住民主体の居場所づくりを支えてきたコーディネーターをお招きし、コロナ禍を踏まえ居場所づくりの今後のあり方について話し合いました。立場や地域を超えて議論することで居場所づくりの意義が見いだせたと感じます。



フォーラムの報告書では全分科会の詳細がご覧になれます

まち

安全・安心のまちづくり
快適で魅力ある居住空間の実現を目指しています



あんしんすこやかセンター職員へのお部屋探し講習会を実施しました！



財団の住まいサポートセンターでは、主に高齢者の賃貸物件探しをお手伝いする『お部屋探しサポート』を実施しています。その件数は、年間300件以上！

『あんしんすこやかセンター』が高齢者にとって心強い相談相手となっています。そこで、財団では6月に2回、住み替え支援のポイントなどを理解してもらう講習会を、『あんすこ』の職員向けに実施しました。安心して住み続けられる住まいづくり事業の取り組みとして、今後も福祉との連携を続けていきます。

成城の魅力を再発見！ 「成城さくらウォークラリー」開催

コロナ禍でもできる催しとして企画したのが、「成城さくらウォークラリー」です。法人格成城自治会に後援をいただき、3月～4月の期間中、成城の8カ所を、クイズ形式により各人のペースで巡ってもらいました。「地元なのに知らない名所があるのに驚きました。いい運動になりました。」というお声が多数寄せられました。沢山の方が成城の良さを再発見されたようです。



ビジターセンターと野川と、満開のオオシマザクラ

The 30th Anniversary！公益信託世田谷まちづくりファンド

世田谷の住みよい環境づくりにつながる区民主体のまちづくり活動への助成事業『世田谷まちづくりファンド』は、1992年の設立以来、多くの活動への助成を行ってきました。30年を経て今、行政施策を支える活動、当事者の活動、独創的・先進的な取り組みなど区民主体のまちづくり活動が多様な広がりをみせています。

公開型の審査は、30年前から続くファンドの特徴です。対面開催は3年ぶりとなりました（5・6月実施）。発表する側、審査する側、立ち会う私たちも、会場にあふれるさまざまな想いと熱量を実感し、それが団体同士の学びあいや交流をより促すことも再認識しました。一般の方はライブ配信での視聴となりましたが、来年は会場での参加型開催をめざしたいと思います。



はじめの一步&U23部門：発表者の紹介

30周年記念イベント『まちづくりDAY』を開催します

世田谷のまちに関わる人達と、イベントやファンドの振り返りをしようというものです。2021年12月に行った24時間イベントの参加者有志で、3月から毎月オンライン会議を重ねています。期間は11/20（日）-12/3（土）。多くの方々のご参加をお待ちしています！



まちづくりDAY



活動部門：せたキャンプレゼンボード